

Web連載

# 注目！がん看護における 最新エビデンス

**升川研人**

東北大学大学院  
医学系研究科 保健学専攻  
緩和ケア看護学分野博士後期課程

**宮下光令** 教授

東北大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

## 第43回

# 口腔ケアは肺がんの 術後在院日数／呼吸器感染症を 減らすのか？

Ishikawa S, Yamamori I, Takamori S, et al. Evaluation of effects of perioperative oral care intervention on hospitalization stay and postoperative infection in patients undergoing lung cancer intervention. Support Care Cancer. 2021 Jan;29(1) : 135-143.

今回は、肺がん患者における周手術期口腔ケアと術後の在院日数／術後呼吸器感染症（肺炎と膿胸）との関連について調査した日本の研究を紹介します。

肺がんの手術を受けた患者を対象とし、診療記録からの情報で過去をさかのぼり、口腔ケアを受けていた患者と受けなかった患者を比較しています。分析対象と

なったのは585人で、そのうち397人が歯科口腔外科に紹介され、術前口腔ケア介入を受けていました。介入内容としては、肺がん術前1～4日に、パノラマ撮影と歯周病の評価をした上で、必要な治療を提供し、また、歯科医または歯科衛生士などの専門家が専門の機器を使用して行う歯のクリーニングであるPMTC (Professional Mechanical Tooth Cleaning) を実施しました。

主な結果を図と表1・2に示します。

図 口腔ケア介入群と非介入群における術後在院日数の比較

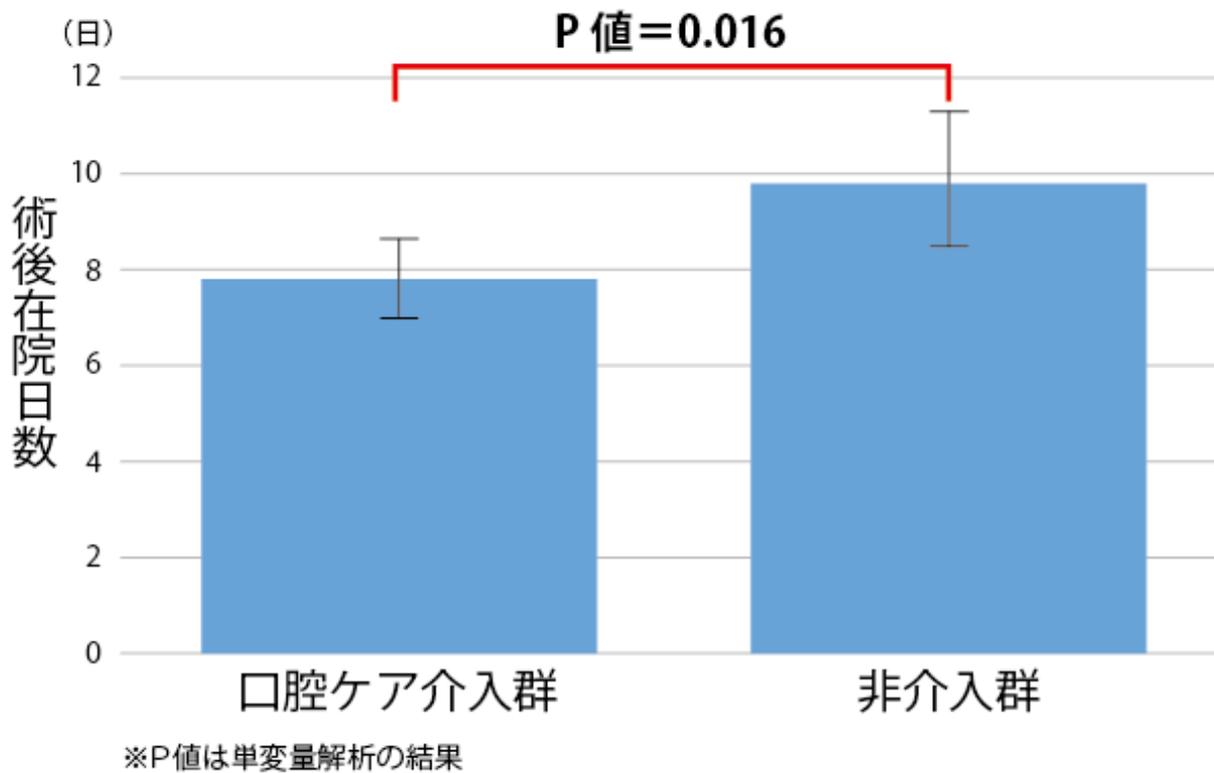


表1 術後在院日数への関連要因 (多変量解析の結果)

	回帰係数	P値
口腔ケア (介入なし)	2.2	0.03
年齢	0.1	0.02
術後合併症 (あり)	3.3	<0.001
胸腔鏡下手術 (開胸術と比較して)	-0.1	0.001
術中出血量 (g)	0.2	<0.001

※回帰係数が正であることは、術後在院日数が増加することを示す。  
逆に、負であることは、術後在院日数が減少することを示す。

**表2 術後呼吸器感染症への関連要因 (多変量解析の結果)**

	調整済みオッズ比 (95%信頼区間)	P値
口腔ケア (介入なし)	<b>2.4 (1.0-6.2)</b>	<b>0.06</b>
年齢	1.1 (1.0-1.1)	0.03
手術時間	1.0 (1.0-1.0)	0.002
ブリンクマン指数 (喫煙指数)	1.0 (1.0-1.0)	0.09
手術部位が左肺	0.3 (0.1-1.1)	0.07

※オッズ比が1より大きいことは、術後感染症が多いことを示す。  
逆に、1より小さいことは、術後感染症が少ないことを示す。

図では、術後在院日数に関して口腔ケアを受けた群と受けなかった群で比較しています。口腔ケアを受けていない群での術後平均在院日数が9.7日であるのに対して、を受けた群では平均7.8日でした（P値=0.016）。表1・2では多変量解析を実施した詳細な結果を示しています。表1では、ほかの要因で調整した上でも、口腔ケアを受けていない場合、術後在院日数が2.2日程度増加する傾向があることが明らかになりました。表2は、術後呼吸器感染症（肺炎と膿胸）発症への関連要因を示しています。統計学的に有意な関連要因として口腔ケアは認められませんでした。口腔ケアを受けていない人は、受けている人と比較して術後呼吸器感染が多くなる傾向（オッズ比=2.4）があることが明らかになりました。

今回は、肺がん患者を対象として、周手術期における専門的な口腔ケアの効果を検証しました。ほかの先行研究の報告によると、食道がん手術の術後肺炎の発症予防においても、口腔ケアが有効であることが示されています<sup>1, 2)</sup>。また、結腸がん患者においても、周手術期口腔ケアが術後の入院期間の短縮と関連していることが報告されています<sup>3)</sup>。そのため、疾患部位や術式に限定されず、周手術期口腔ケアの実施の有無は術後の状態に影響を与え得る重要なケアであると考えます。

化学療法や放射線療法中においても、口腔ケア介入の有効性が示されており<sup>4, 5)</sup>、さらに、終末期においても多くの患者が口腔症状を抱えており、それが患者のQOLに悪影響を及ぼす可能性も報告されています<sup>6, 7)</sup>。提供可能な口腔ケアの内容には差があるかもしれませんが、周手術期から終末期に至るまで、がん患者の口腔内を観察しケアを提供していくことは、医療者の重要なタスクの一つであると言えるでしょう。

## 引用・参考文献

- 1) Akutsu Y, Matsubara H, Shuto K, et al. Pre-operative dental brushing can reduce the risk of postoperative pneumonia in esophageal cancer patients. Surgery. 2010 Apr;147(4) : 497-502.
- 2) Soutome S, Yanamoto S, Funahara M, et al. Effect of perioperative oral care on prevention of postoperative pneumonia associated with esophageal cancer surgery : A multicenter case-control study with propensity score matching analysis. Medicine. 2017 Aug ; 96 (33) : e7436.
- 3) Nobuhara H, Yanamoto S, Funahara M, et al. Effect of perioperative oral management on the prevention of surgical site infection after colorectal cancer surgery : A multicenter retrospective analysis of 698 patients via analysis of covariance using propensity score. Medicine. 2018 Oct;97(40) : e12545.
- 4) Kawashita Y, Koyama Y, Kurita H, et al. Effectiveness of a comprehensive oral management protocol for the prevention of severe oral mucositis in patients receiving radiotherapy with or without chemotherapy for oral cancer : a multicentre, phase II, randomized controlled trial. Int J Oral Maxillofac Surg. 2019 Jul;48(7) : 857-864.
- 5) Lalla RV, Bowen J, Barasch A, et al. MASCC/ISOO clinical practice guidelines for the management of mucositis secondary to cancer therapy. Cancer. 2014 May 15;120 (10) : 1453-1461.
- 6) Davies A, Buchanan A, Todd J, et al. Oral symptoms in patients with advanced cancer : an observational study using a novel oral symptom assessment scale. Support Care Cancer. 2021 Aug;29 (8) : 4357-4364.
- 7) Fischer DJ, Epstein JB, Yao Y, et al. Oral health conditions affect functional and social activities of terminally ill cancer patients. Support Care Cancer. 2014 Mar;22 (3) : 803-810.

---

ますかわけんと：東北大学医学部保健学科看護学専攻卒業後、国立がん研究センター東病院にて看護師として勤務。その後、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野博士前期課程に進学・修了。2019年4月より、当分野博士後期課程に進学し現在に至る。主な研究テーマは、自然言語処理と機械学習の緩和ケア領域における利活用。

みやしたみつのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業、臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

この商品の内容に関するお問い合わせは[仙台事務所](#)  
お急ぎの場合は、**TEL (022) 261-7660**におかけください。  
※土・日・祝は対応しておりません。

ご注文に関する内容・変更・追加などのお問い合わせは、  
お客様センターフリーダイヤル**0120-057671**に  
おかけください。

※本サービスは事情により予告なく終了することがございます。  
あらかじめご了承ください。

[ページトップに戻る](#)

---



Copyright© nissoken. All Rights Reserved.

お客様センターフリーダイヤル 0120-057671